

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501639		
法人名	株式会社 ケア・ハート		
事業所名	グループホーム あかしあ ゆったり館		
所在地	札幌市豊平区中の島1条7丁目8-1		
自己評価作成日	令和4年9月15日	評価結果市町村受理日	令和4年11月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170501639-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者との関係が事業所内で終結せず、常にご家族と一緒にある所。楽しい事悲しい事全てを共にしながら生活出来る場所。職員に入れ替わりが少なく入居者と職員が信頼関係を築きながら安心して生活出来ている。季節の行事が多く入居者職員と一緒に楽しめる。ホーム庭には畑があり野菜の栽培や収穫を楽しむ事が出来る。町内会との関係も良好で町内会の一員として町内会行事にも参加出来ている。近隣の子供たちのサークル活動にも参加交流が持てている。職員研修の補助などがあり積極的に勉強参加出来る環境にある。休日が取りやすく残業がない。職員も安定しているためサービス提供もしっかりとできている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、最寄りの地下鉄駅やバス停から徒歩圏内にある住宅街に位置し、周辺には病院、コンビニ、郵便局等があり、生活環境に優れている。系列2カ所のグループホームとは管理者会議や非常時の協力等で連携があり、共に切磋琢磨し質向上を目指している。コロナ禍においても感染症予防対策を施し、町内会役員や民生委員、地域包括職員の参加の下、運営推進会議の開催、利用者にとって大切な方々との面会、桜見物や家族支援でお墓参り等が行われている。室内でのレクリエーションもバラエティに富み、体操や運動、ゲームやトランプ、カルタで盛り上がり、夕方近くに線香花火、季節飾りなど利用者合同で行い、程良い刺激に繋げている。事業所は、人材育成を目的としたキャリアパス制度を導入し、利用者の生活の質の向上を目標として取り組んでいる。職員は、基本理念である「ゆったり、笑顔で、その人らしく」の実践に努め、利用者の穏やかな生活を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護事業を通して地域社会に貢献するという理念のもと理念を職員間で共有し町内会やその他の近隣住民のサークルとの行事交流や意見交換など定期的に行っている。	系列事業所の共通理念である法人理念、基本理念、ケア理念をユニット内や職員室に掲示し、さらに勉強会等で理念の持つ意義を確認している。地域密着型事業所として、地域との交流を大切にしたい運営に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として行事に参加したり各種サークル活動への参加、事業所行事への町内会の参加などをお願いしながら交流をもっている。	地域交流も制約はあるが、運営推進会議には町内会役員や民生委員の出席が得られている。サークル活動の親子から子供達の写真や敬老会にはフラワーアレンジメントが届き、利用者を笑顔にしている。職員も町内会活動(廃品回収・スタンプラリー)に参加し、馴染みの関係を大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方へ2か月に1度行っている運営推進会議への参加をお願いしホーム内で暮らす方々の活動や支援の方法など詳しくお話ししながら理解していただく機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ここ2年間はコロナ禍ということもあり参加メンバーにも規制を掛けること多かったが町内会や地域包括の方々への参加にいろいろな意見を聞く機会を得ていた又ご家族様にはお手紙やアンケートにてご意見をいただく機会を作った。	会議は町内会役員や民生委員、地域包括職員の出席の下、2ヶ月ごとに開催している。レクリエーションや行事など活動の内容、事故報告、看取りケア等を議題としているが、地域の高齢者に対する案件でも意見交換が行われ、双方向な会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括職員との意見交換の場は運営推進会議にて得ており、市からの連絡事項はメール等を利用し行うようにしていた。	行政機関とは法人本部と管理者がそれぞれに関わりを持ち電話やメールでやり取りをしているが、事故報告は郵送している。運営推進会議の委員である地域包括職員や利用者の状況確認で訪れるケースワーカーとは実情を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作り3か月に一度ホーム内における身体拘束事例などがないか話し合い検討する機会を作っている。又全体的な勉強会も年に2回行い互いに取り組んでいる。今年は地域包括職員に勉強会の開催をお願いしようと思っている。	身体拘束をしないケアを基本として、利用者のできない部分を支援している。指針に基づき3ヶ月ごとの適正化委員会、年2回の研修会を開催し、グレーゾーンを含めた事例検討やチェックシートで職員のストレス度を把握し、利用者との良好な関係に努めている。心身の状況により通常のケアが困難であっても職員の努力で乗り切っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度から身体拘束委員会と同時に虐待防止法についても職員全体で学ぶ機会を作っており職員間で話し合いを持ちながら虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホームで暮らす中ではなかなか使う機会はないが必要な状態が出来たら職員間で話し合い活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約に関する書類等をしっかりと読み合わせし疑問に持ったことなどあればすぐに納得できるよう説明しており不安がないようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見等を言いやすい環境づくりをしており苦情等を申し入れできる外部機関の連絡先も契約書等に記載している。ご家族や利用者の意見は普段の生活に反映できるようにしている。	家族には毎月ユニット便りを送付し、事業所からの報告と個別の様子を写真やメッセージで伝え、また、ホームページでも行事内容等を発信しています。家族の要望は、電話や面会時、家族アンケートで把握し、利用者の意向も含め、できる限り応える態勢にある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員との意見交換を活発に行っており運営に活かせるものは反映している。代表者にも職員の意見を伝える機会を常にもっている。	代表者や管理者は、業務上や各種会議、個別面談等で出された職員の意見や提案を受けとめ、運営の質向上や職場環境の整備に生かしている。職員は自己研鑽に励み、レクなど各業務で力を発揮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度代表者を交えた管理者会議を行っており職員の職場環境や条件の向上に努め個々がやりがいをもって仕事ができるよう話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力を把握し個人にあった研修の参加や、それを活かした仕事の提供等を考慮しながら職員が上を目指していけるよう援助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通して同業者と交流する機会を作っている。それぞれの事業所での取り組みを聞き自施設でも活用出来るところは活用するなどサービスが向上するよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際に本人との面談において不安等がないか希望することはないかを尋ね安心して生活できるように支援している又入居されてからも日々の様子を見ながら本人が安心して生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の初回の家族との面談において不安や要望について詳しく聞いている。入居後も関係づくりをしながら家族の意見等を取り入れることが出来るよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族との話し合いを元にホームで暮らすうえでは何が必要かを職員全員で話し合っている。本人や家族の必要としていること等を常に全員で検討しながら支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員で今本人の出来ることは何かを常に考えながら出来ることはしていただいたり、一緒に行いながら生活を共に過ごすことを常に考えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人について家族が知っていることは教えていただいたり、生活の様子をこちらからもお伝えしたりお互いに支えあう関係を常に築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との関係や友人との関係が途切れないよう面会や電話、ラインでのやり取り、外出等で支援している。	感染症予防対策を行い、状況を見極めながらリモートや対面での面会、電話や手紙等で馴染みの人との関係維持に努めている。要望による買い物や墓参り、通夜参列など、家族と協力して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し問題なく接することが出来るよう環境を調整している。孤立しない席の配置をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方からの相談事があれば不安なよう対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時本人や家族から暮らしぶりをお聞きしたり入居後の生活の希望意向を聞き取り本人が暮らしやすいよう検討している。毎月のカンファレンスで職員間で話し合いを持っている。	理念の一節である「その人らしく」を念頭に利用者の思いを実現するため、家族の意見も参考に職員間で協議をし、状況によってはケアプランに反映している。終末期への意向は聴き取っているが、文書化はこれからの取り組みとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし振りを家族やケアマネより情報収集し本人をより詳しく理解し把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の体調チェックや心身状態の把握を常に職員全員で行っており情報共有しており生活の支援方法を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者担当の職員を中心に定期的にケアプランの見直しをしており話し合い現状把握環境について検討しその時々合った介護計画を作成している。	ケアプランの更新時は、事前に得ていた利用者や家族の生活への意向を反映して作成している。個別の記録等を基に評価や課題分析を行い、時には医療従事者の意見を踏まえ、職員全員で適切な支援目標になるよう話し合っている。支援目標の実践は、介護記録で確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの日々の様子を詳しく入力しており申し送り等で情報を共有し何が必要かなど話し合い定期的に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍において出来ない事も多かったが状況を見ながら出来る時は外出や面会など希望に沿えるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の高齢化、コロナの影響等でなかなか外出出来ないことが多かったが散歩や日光浴畑作業など個人や情勢にあった支援を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年夏に往診医変更になったが今まで同様不安なく診てもらえている。往診の際医師と本人の会話もあり安心している様子がうかがえる。家族にも何かあれば直ぐに連絡をいれている。	殆どの利用者は、月2回の訪問診療を選択している。馴染みの主治医や専門医への外来受診は、家族と協力して支援している。24時間連絡体制の看護職員による週1度の健康チェックも行われ、状態変化時に備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度訪問看護が来ており体調管理をしている。その際担当医からの話や利用者の近況などを報告し助言等もうけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時入院中の情報交換は相手先の担当者と話し合い問題ないようにしている。入院がどの位になるのか長くなってしまうと心身の状態が落ちてしまうのであるべく早く退院できるよう調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の支援については説明し承諾を得ている。終末期が近づいた方に関しては家族、医師、職員で話し合い連携しながら取り組んでいる。	契約時に、重度化や終末期を含めた医療体制を説明後に利用者や家族の意向を傾聴している。職員は研修会や勉強会での学びを生かし、その時々状態に応じ、重度化や看取りの各々の指針に沿って最終支援を家族と共に行っている。看取り後は、家族から感謝の言葉が寄せられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修で得た知識を職員間で勉強しあい、急変時に備えている。急変時あった時は職員間で話し合い対策を講じている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回災害に関する避難訓練を実施しており火災に関しては町内会の協力を得られるように話している。水害や地震に関しては地域も被災するので避難場所の確認等はしている。	年2回、夜間想定で地震や水害を含んだ火災避難訓練を計画しているが、実行はこれからとしている。訓練は新人職員を優先し、災害時の備蓄品等は法人本部のバックアップ体制の下、随時用意している。地域との協力体制も構築している。	計画の実行と全職員が発電機の使用方法を習得、また、あらゆるケア場面での対処、公的避難場所への移動訓練を検討しているので、期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の性格人格を把握しプライドを気付けけるような言葉かけや対応をしないよう検討会を持ちながら日々支援している。	理念の中で尊厳ある生活への支援を謳っており、実践に努めている。介護記録はタブレット端末で管理するなど、個人情報も適切に扱っている。言葉遣いなど、不適切な状況があれば管理者が正しく導いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で一方的に支援するのではなく本人の意向を常に聞きながら自分で決めるよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家で暮らすように本人本位で自由に暮らして頂いている。認知症の進行により時間などがわからない場合は不安にならないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに沿って支援している。認知症が進み出来なくなっても清潔でいられるよう個人の好みを活かしながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者同士気の合う人が一緒にテーブルに座れるようにしたり肉や魚が苦手な方、量形状などその方に合わせた食事を提供している。後片付けや準備の出来る方にはお手伝いして頂いている。	法人本部から献立と食材が届き、時には菜園の新鮮野菜を活用し、食事の一連の作業を利用者と行っている。利用者の要望を取り入れた自由メニューが週1回あり、満足度が上がっている。敬老会等の祝い膳やBBQなど多様な食事内容になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形態、栄養バランスはそれぞれに合わせて提供している。水分量は入力し把握できるようにしている。身体状況によって食事摂取方法を考えながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に応じた口腔ケアを毎食後実施している。月に2度歯科の訪問があり指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄パターンを全員入力し把握できるようにしており個人にあった支援をしている。おむつ交換をしている方が1人いるがトイレでの排泄を目指し支援している途中である。	利用者の状態により見守りや介助、ベッド上での支援などがあるが、トイレでの排泄を基本としている。利用者の意向で衛生用品を使用し、安心感に繋げている事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用している方もいるが、食事でも工夫したり水分や運動を取り入れ、なるべく自然に排泄できるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	衛生面を考慮し3日に1度は入浴できるようにしているが、強制的に入れることはほとんどない。曜日は自由だが職員の仕事上時間は午後からになっている希望があれば午前に入ることもある。	毎日入浴できる態勢にあるが、湯加減や回数、時間帯、同性介助などには柔軟に対応し、週2回を基本として支援している。シャワー浴や清拭も行っているが、殆どの利用者は湯船で寛いでおり、歌や本音が聞かれることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し安心して眠れるようにしている。明るさや寝る前の習慣など個人の好みに合わせて生活して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	タブレットに個人の薬の情報が入っており常に職員全員が把握している。服薬の方法を工夫し確実に服薬出来るよう支援し状態に変化がないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意とする事、苦手な事、楽しいと思う事等職員間で話し合いながら生活の中で活かせるよう支援している。得意な事を役割や気分転換としてされる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり外出は少なくなっているが、ご家族との外出や散歩などは状況見ながら実施している。	感染症予防対策を十分行い、玄関前のベンチで日光浴、周辺の散歩、買い物、畑の手入れ、近くの公園で花見、夕方近くに線香花火を楽しんでいる。外出企画で近隣の都市公園で花や樹木を観賞、河畔公園で桜見物をするなど、日常から離れた景観を味わっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理している方は少ないが近隣のコンビニなどで買い物をされる方もいる。本人の体調面やコロナ情勢により買い物等は最近では行かなくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ライン電話にて顔を見ながら会話できる体制にしている。外部からの電話や手紙は自由にやりとり出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じさせるよう季節ごとの手作りの飾りを装飾している。廊下には行事ごとの写真を貼り入居者が楽しめるようにしている。転倒しないよう環境整備に努めトイレや洗面所の場所がわかりやすいよう張り紙や飾りをつけている。個人の居室もわかりやすいようにしている。	共用空間はゆとりある設えになっており、動線に配慮して調度品が置かれている。利用者が心地良く過ごせるように温湿度、採光、換気、臭気、音量等に配慮があり、利用者は、居間で体操やトランプなどを楽しんでいる。居間には利用者と作成した季節飾りや庭からの花々が置かれ、のどかな雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士が向かい合って座れるよう、一人で過ごすことが好きな方も静かに過ごせるよう席を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居してから本人の希望に沿ってご家族と相談しながら必要な物を準備している。本人が過ごしやすい空間づくりをしている。	クローゼットを備えている居室には、ベッドやタンス、ドレッサー、テレビ等が持ち込まれている。趣味の俳句を書いた短冊や編み物道具、家族写真、庭から摘んだ花を活けるなど、心地良い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており廊下、トイレ内などなるべく自分で出来るよう手すりがついている。場所の把握も出来るよう名札がついており迷わず自力で移動できるよう工夫している。		